コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：静岡県富士宮市

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1　事業名称：林業の６次産業化（木質バイオマスボイラー）

事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
富士山麓の自然体験（アクティビティ）として、観光客が増加しているキャンプ場において、給湯や暖房機器に必要な化石燃料に替わるものとして、地域の木材を活用した木質バイオマスボイラー（薪ボイラー）を導入する。 木質バイオマスボイラー（薪ボイラー）の燃料は、地域の木材（薪）であるため安価に調達が可能である。 また、地域の森林資源を有効活用することで、林業の活性化を図り、エコツーリズムとして市内北部の地域振興とキャンプ場を、滞在型観光の受け皿として開発し、観光客増加を目指し、地域活性化を図る。 また、薪割りなどの自然体験などの環境学習を計画する。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	化石燃料を使わない環境にやさしい再生可能エネルギーの木質バイオマスを活用し、環境保全を啓発し、二酸化炭素の排出を削減するとともに、森林資源を活用することで、林業振興を図り、木材需要を高め、地域の森林を保全するため。また、北部地域のイメージを向上させ、世界遺産富士山の観光の在り方、滞在の仕方を見直し、地域の活性化を図るため。	・林業の担い手不足や後継者の育成。 ・事業に伴う森林の整備。 ・未利用木材の量の把握や流通経路拡大。 ・新たな木材流通の確立や買取等のルール作り。 （薪として利用できるか） ・エコツーリズムとして、キャンプ場と北部地域が、新たな観光ルートでつながり、相互に観光の魅力を引き出し、相乗効果を生み出す流れが構築できるか。 ・事業化に伴う経費の確保。
	②どの地域資源を活用するか	・キャンプ場周辺地域の木材と、未利用木材等（猪之頭地域木材）を薪として利用。・富士山の景観を、キャンプ場と北部地域がエコツーリズムの資源として活用。	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	・木質バイオマスボイラーによる宿泊施設の暖房と給湯（熱エネルギー）・世界遺産富士山麓の観光スポット・エコツーリズムの観光ルート・滞在型観光の宿泊施設（キャンプ・民泊等）	
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	地元林業家、地元観光業社、地元振興組合、農家	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	人、森林資源、エネルギー（熱）、お金（燃料代、農産物）	地域の林業家、林業を目指す若者、山主

2　事業名称：農業用水を活用した小水力発電（地域のエネルギーと特産品開発）

事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
市内北部地域の水量豊富で落差のある農業用水を活用し、小水力発電所を設置する。 発電した電力は、地元の地域新電力が取り扱い、地域の農産物加工施設や農業用ハウスなどの電力として利用し、エネルギーの地産地消ができる。 この再生可能エネルギーである小水力発電で生まれた電力により生産された農産物の特産品を開発し、持続可能な農業経営を行う。 また、地域エネルギー創出と特産品生産の新たな仕組みを作り、環境に配慮した農業経営のもと雇用を生み、同時に発電所や農業施設を産業施設として観光スポット化し、集客により、地域の活性化を目指す。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	再生可能エネルギーである小水力発電により電力を創出し、持続可能なエネルギーによる、地域の特産品を開発することで農業振興を図り、また、産業施設として観光スポットを作ることで、北部地域の環境を保全しながら、雇用を創出し地域の活性化を図るため。	・水力発電所の稼働に伴う、水利権などの許認可取得。（測水調査など導入までに時間がかかる） ・電力は、農業施設に供給。 ・農産物の選定や販路、生産量の検討。 ・地元で地産地消をベースに、特産品化を図る。 ・事業化に伴う経費の確保。
	②どの地域資源を活用するか	農業用水（流量と落差）、農地	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	再生可能エネルギー（水力発電）・農産物・環境教育・観光スポット	
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	ＮＰＯ法人、地域の新電力会社、農家、学校	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	人、エネルギー（電気）、お金（農産物）	農業者、マーケティングの専門家、消費者 小水力発電の技術者

3　事業名称：下水道汚泥の固形燃料化

事業概要	事業の内容		現時点で想定される課題・ボトルネック
これまで下水汚泥は、廃棄物として処分されている。 この下水汚泥を、低コストで固形燃料化し、小型バイオマスボイラーの燃料として、暖房や発電設備等に活用する。 廃棄物である下水汚泥が、地域を循環する燃料として商品化され、地域バイオマス燃料として汎用化し、事業化と商品化により循環型社会の構築を目指す。	①なぜこの事業をやるのか（Why）	処分に要した経費を削減するとともに、海外から輸入している暖房や発電に必要な化石燃料から、地域にある資源の有効利用を図り、循環型社会の構築を図る。廃棄物である下水汚泥を、化石燃料の代替燃料化することで、地域循環資源となり、地球温暖化対策に貢献する。	・脱水乾燥剤を利用し、送風・撹拌方法による下水汚泥の乾燥化実証実験に必要な場所の確保 ・固形燃料化のために、燃焼実験などデータ分析費の確保 ・下水汚泥の熱量のデータ集積費の確保。 ・継続的に実証実験を行う人的確保。 ・固形化燃料するため、最適な形状や品質を研究。 ・実用化できた際、販路の検討。 ・事業家に伴う経費の確保
	②どの地域資源を活用するか	市の下水処理施設（生活排水処理センター）の下水汚泥	
	③商品・サービスの具体的な内容は何か（What）	化石代替燃料として商品化。既存の小型バイオマスボイラーの燃料（給湯・暖房機器）	
	④誰がこの事業の主たる担い手か（Who）	市内事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	人、バイオマス燃料、お金（燃料）	行政、機械メーカー（大型ミキサーなど） 販売先 火力発電所、バイオマス発電所 バイオマスボイラー利用者（混焼が可能なボイラー利用者）